

受付No.

2026年度 アートによる地域振興助成（スタートアップ）

公益財団法人 福武財団 理事長 福武英明殿

募集要項に則り、本応募用紙に記載した通り、標記助成に応募いたします。

<団体プロフィール>

団体名	一般社団法人仮かっこ				
住所	〒927-1214 石川県珠洲市飯田町26-41-2				
団体区分	一般社団法人	スタッフ数	2名		
代表者氏名(カナ)	シヤケンタ	役職	代表理事	年代	30代前半
代表者氏名	新谷 健太				
団体URL1	https://www.karikakko.jp/				
団体URL2					

<申請者・実務担当者> ※団体所在地と同じ場合は「同上」*申請者には、助成に関する諸手続きの連絡担当者の名前を記入してください。

申請者氏名(カナ)	カエデヒロミ	役職	理事	年代	30代前半
申請者氏名	楓 大海				
連絡先 e-mail	karikakko.azuma@gmail.com	電話番号	080-6914-1870		
住所 (書類の送付先)	同上				

<プロジェクトリーダーの略歴> ※アートプロジェクト等の運営経験や当時の役割を記載してください。

氏名(カナ)	カエデヒロミ	役職/肩書	運営責任者	年代	30代前半
氏名	楓 大海				
年(西暦) 月	略歴(活動内容)				
2022年4月	「スズシアターミュージアム」の運営責任者としてメンテナンスからイベント運営に関わる。				
2023年3月	「のと鉄道アートステーション-ポップア・イン・レジデンス-」の運営を担いアーティストとしても参加した				

<福武財団の助成実績>

助成を受けて活動した年度

<外部協力者の状況>

氏名	年代	組織名	所在地(市町村まで)	協力内容(できるだけ具体的に)
北澤晋太郎	30代後半	NPO法人ガクソー	石川県珠洲市	教育NPOを運営しており、現地の子どもたちなどと繋ぎ、ワークショップなどのイベントに協力してもらう
西海一紗	30代前半	一般社団法人サポースズ	石川県珠洲市	震災後に「スズレコードセンター」というアーカイブセンターを立ち上げ、企画運営をしている。アーティストが現地のリサーチをする際に資料の提供などのサポートをしてもらう。

<活動内容・事業計画について>

表現手法	アーティスト・イン・レジデンス
活動テーマ	被災地（の地域振興）
事業名	アーティスト・イン・レジデンス・スズ
2026年度の活動期間	2026/04/01 ～ 2027/03/31
活動に従事するスタッフ数	2名

1. 団体の活動の概要

<p>石川県珠洲市を拠点に、アーティスト・イン・レジデンス（AIR）事業を立ち上げます。被災した活動拠点予定の物件の整備を行い、アーティストのみならずサイエンティストや他分野のクリエイターを招聘。地域の自然・歴史・文化資源のリサーチとアーカイブを重点的に実施し、滞在者と地域住民が協働する公開リサーチやワークショップを通じて、地域資源の再発見と創造的活用を促進します。多分野の知と表現を交差させることで、珠洲市に持続可能な文化創造のプラットフォームを築き、地域の魅力発信と文化的活性化に寄与します。また、AIRの定着により、地域と国内外の創造者の持続的な交流を促進します。</p>
--

2. これまでの活動の沿革

申請事業の活動年数	0～1年	
年（西暦）	月	活動内容
2025年	1月	活動拠点予定の物件の購入
2025年	9月	活動拠点予定の物件の残留品の整理
2025年	9月	建築士による診断

3. 活動エリアについて

活動エリア	石川県 珠洲市
活動エリアの特色（歴史、文化、地域性、魅力など）	<p>石川県最北端に位置する珠洲市は、豊かな自然と独自の文化を有する地域です。日本海側に面する外浦地区は美しい岩礁が続き、富山湾に面する内浦地区は砂浜が続き、能登半島でも外浦と内浦を面しているのは珠洲市だけである。古くから伝統的な塩作りや珪藻土を利用した産業、もちろん漁業や農業など自然を基盤とした生業がある。また、地域コミュニティの結びつきが強く、祭礼や伝統行事が今も大切に継承されています。海と山に囲まれた地理的特徴から、暮らしの知恵や地域資源の活用が日常に息づき、独自の生活文化が育まれてきました。また、北前船の寄港地であり交易や人々の交流が盛んだった歴史もある。</p>
活動エリアの課題（まず初めに、活動エリアにおける課題を簡潔にご記載ください。続けて、その課題の背景や詳細について、できるだけ具体的にご記入ください。）	<p>珠洲市は少子高齢化が進み、消滅可能性都市として指定され、人口減少が一番の課題である。これは半島の先端に位置している地理的特徴もあるが、全国の過疎地域の共通である、都市圏への人口流出が原因であると考えられる。それゆえ、地域に根付いた伝統文化や生活文化の継承が危機に直面している。祭礼や伝統行事、漁業や農業に関わる生活技術、地域独自の知恵や習慣は、担い手の減少により次世代への伝達が十分に行われていない。また、能登半島地震により多くの家屋が被災し解体されたことにより、活動したいと思っても活動拠点が不足していることにより十分な活動ができない点も大きな課題である。</p>
貴団体の地域に対するミッション（活動の目的）	<p>我々は、珠洲市の伝統文化や地域資源の継承・再発見を通じ、持続可能な文化創造の基盤を築くことを目的とする。アーティストやサイエンティスト、その他多分野のクリエイターを招聘し、地域の自然・歴史・生活文化のリサーチやアーカイブを行うことで、地域資源の価値を体系的に可視化する。滞在者と住民が協働するワークショップや公開リサーチを通じ、地域文化の理解を深め、次世代への継承を促進させる。また、国内外の創造者と地域住民が交流する場を提供することで、新たな文化的ネットワークを形成し、珠洲市を創造・学び・発信の拠点として発展させることを目指す。</p>

7. 2026年度のプロジェクト評価の観点や指標をどのように設定しますか。

定性（状態的な目標）、定量（数値的目標）をお書きください。

〔評価観点〕

地域文化の理解・継承の促進、多分野交流による新たな創造の芽の発生、地域の文化発信力・関係性の向上を主な観点とする。滞在アーティストやサイエンティストなどの滞在者、地域住民、協働団体を対象に、活動を通じた意識変化や交流の質を把握する。

〔評価手法〕

各プログラム終了後に、滞在者および地域住民を対象としたアンケート調査を実施し、満足度・理解度・関与意識などを5段階で評価する。アンケートはオンラインまたは紙面で配布し、自由記述欄では参加を通じて得た気づきや今後の関わりへの意欲を記録する。さらに、ワークショップや公開リサーチ後には、参加者を対象にヒアリングを行い、交流による新たな発想や学び、地域文化への理解の深まりを質的に分析する。また、滞在者には成果レポートや活動記録を提出してもらい、地域との協働内容や創造的成果を把握する。

〔評価目標値〕

アンケート回収率は全体の70%以上を目標とし、各評価項目（満足度・理解度・関与意識）の平均点が5段階中3.5以上となることを目指す。これにより、地域と滞在者の双方における文化理解と交流の深化を確認する。

8. 2026年度の翌年以降の、地域に持続的に関わる中期計画と将来ビジョンをお書きください。

※一般申請者は、その計画・ビジョンの展開がこれまでの活動の積み重なりによりどのように紐づいているかと、その展開に事業や運営体制をどのように反映していくかについてもお書きください。

2026年度以降は、立ち上げ期に行うリサーチや試行的プログラムを基盤として、珠洲市の風土や人々の暮らしに根ざしたアーティスト・イン・レジデンスの運営体制を整える。まずは、地域住民や自治会、学校、地域団体との関係を丁寧に築き、滞在者と地域が双方向に関わる仕組みを確立する。ワークショップや公開リサーチを通じて地域の知恵や記憶を共有し、それらをアーカイブとして記録・保存することで、文化の継承と新たな創造の両立を図る。

中期的には、年数回のレジデンス受け入れを継続しながら、地域に定着した「文化の実験場」としての役割を強化する。芸術家や研究者のみならず、地域の職人、漁業・農業従事者など、珠洲で暮らす人々自身が主体的に関わる機会を増やし、内外の視点が交わる創造的な関係性を育む。また、地元の中学校や高校との連携授業、地域行事との共同企画を通じて、若い世代が地域文化に触れ、未来の担い手として育つ環境を整える。

NPO法人ガクソの拠点施設や「スズレコードセンター」などの施設を活用し、滞在成果や地域文化のアーカイブを公開する。観光的なイベントにとどまらず、地域の人々が自らの生活文化を再認識し、誇りをもって次世代へ継承していくことを目指す。レジデンスで生まれた関係性やネットワークを基盤とし、珠洲の自然・文化・人の営みが循環する環境の一端を目指していく。

9. 2026年度以降、複数年の助成を希望していますか？

はい

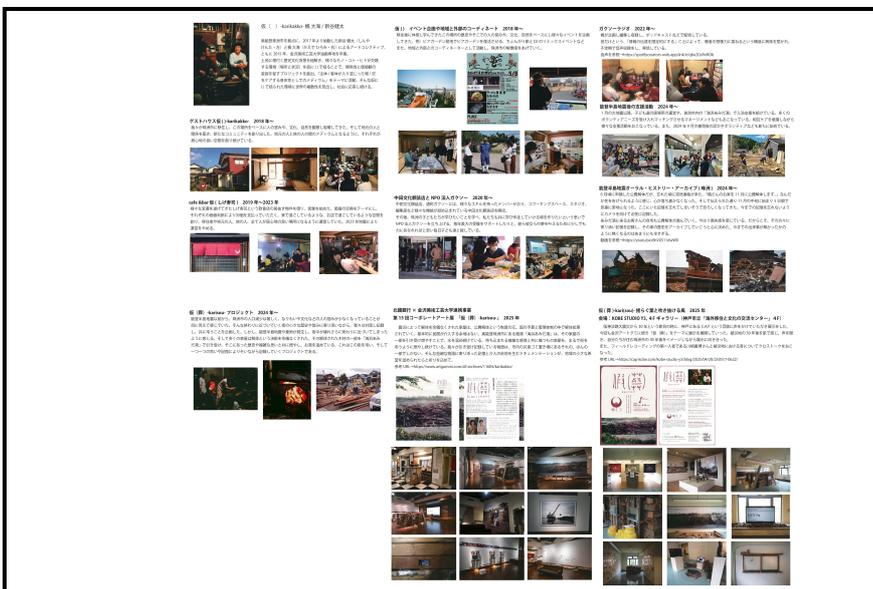
<活動の様子>



活動拠点予定の破損箇所①（壁が複数箇所剥がれ落ちている）



活動拠点予定の破損箇所②（天井が剥がれ落ちている、屋根の瓦が破損している）



仮（ ）-karikakko-のポートフォリオ

